

トマトのアザミウマ類の 発生量が多くなっています

～白ぶくれ症果防止のため開花期の防除に努めましょう～

1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

トマト予察ほ調査（北秋田市）における青色粘着板へのアザミウマ類の誘殺数は、6月4半旬以降平年を上回って推移し、7月2半旬は280頭（平年88頭）で多く（図-1）、7月中旬における被害果率（白ぶくれ症果）は3.5%（平年1.1%）で高かった（図-2）。

また、7月中旬に行った巡回調査（県北2地点、県南1地点）における被害果率は10.3%で前年（5.3%）を大きく上回った。

7月16日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、気温は高い、降水量は平年並か少ないと予報されている。

以上のことから、今後もアザミウマ類による被害の増加が懸念されるため、以下の対策を行う。

2. 防除対策

- 1) ハウス周辺の雑草はアザミウマ類の増殖源となるため除草に努める。
- 2) アザミウマ類は開花期の幼果に産卵し白ぶくれ症果（図-3）の原因になるため、開花期の防除に努める。
- 3) 薬剤散布を行う場合は、花房に付着するよう丁寧に散布する。
- 4) 抵抗性出現回避のため同一系統薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤をローテーションして散布する（表-1）。

3. 資料

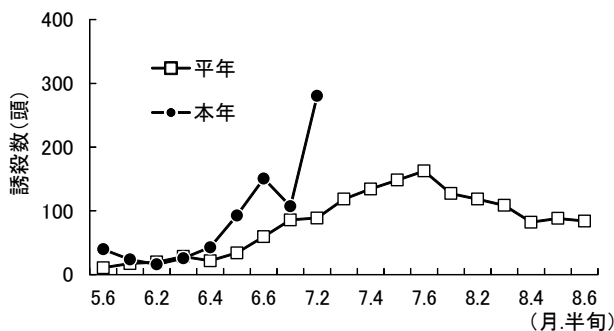


図-1 青色粘着板へのアザミウマ類の誘殺数
（北秋田市予察ほ）

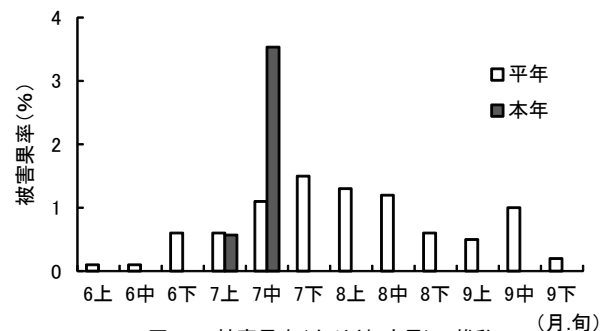


図-2 被害果率(白ぶくれ症果)の推移
（北秋田市予察ほ）



図-3 白ぶくれ症果

表-1 アザミウマ類・ミカンキイロアザミウマの防除薬剤

分類	農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数
c	アーデント水和剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
e	カスケード乳剤	2,000倍	収穫前日まで	4回以内
e	マッチ乳剤	2,000倍	収穫前日まで	4回以内
g	ベストガード水溶剤	1,000倍	収穫前日まで	3回以内
g	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
j	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	収穫前日まで	2回以内
l	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

c : 合成ピレスロイド剤 e : 昆虫成長制御剤 g : ネオニコチノイド剤 j : マクロライド系剤
l : その他殺虫剤

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>